

永平寺と琵琶湖周辺の史跡を訪ねる歌紀行（2）

長崎史談会名誉会長 宮川 雅一

8、釈迦三尊 十八羅漢に 囲まれて 雑念消えゆく
大雄宝殿

先を急ぐ旅なのでゆっくりとしてはおられず、皆はどんどんと境内を巡っている。足の遅い当方は、隠元の隠居所「松陰堂」や有名な菊舎尼の句碑「山門を出れば日本ぞ茶摘み唱」の前で足が止まり、遅くなって皆が待つ駐車場に駆けつける始末。もう少し時間がほしい。

9、隠元の 示寂した場所 松陰堂 あたりの松は 剪定終わる

次の目的地は、山科にある法華総本寺大光山本圀寺。当寺院は当初鎌倉松葉ヶ谷の日蓮上人の住居に創設され、京都に室町幕府を開いた足利尊氏の願いで貞和元年(1345)京都に移り、最近五条通り堀川南からこの地に移った。

10、本圀寺 鎌倉生まれの 五条育ち いま山科に
黄金の郷(さと)

有名な天智天皇陵前でバスを降り、御陵横の山道を登り、琵琶湖疎水に沿って歩き、疎水に架かる朱色に塗られた橋を渡り、長い石畳の参道を進んだところに、あちこちに黄金色の目立つ本圀寺があった。梵鐘も灯籠も清正公廟の鳥居も黄金一色。鎌倉時代や南北朝時代の仏像があるというがゆっくり拝観する時間がなく、絵葉書を買って我慢する。連絡



日蓮宗総本山本圀寺開運門前において

が届いていたらしく、奥の客殿で丁寧な茶菓の接待を受ける。そこで食べた羊羹が美味しかったので、寺務所の売店で買ってお土産にする。

11、黄金の 使われ過ぎに 驚いて 接待上手に さらに驚く

寺を辞し、お金持ちの別荘らしき住宅が並ぶ山科の街をしばらく散策後、近くまで来ていたバスに乗り込み、車中で昼食を取りながら、中仙道を湖東三山の一つ百済寺に向かって走る。予定より大分遅れて午後3時頃、「くだら」ではなく「ひゃくさい」と読む百済寺に到着。百済寺は約千四百年前聖徳太子が百済人のために創建され、長く天台宗の大寺院として

繁栄した名刹である。

12、「くだら」ではなく「ひゃくさい」と読むお寺 千歳を超える 日本の古刹

この百済寺を初めとする「湖東三山」は、元亀元年(1670)の信長による比叡山など天台宗寺院一斉焼討ちのとき、仏



百済寺の山門において

像・経巻類ないし建物の一部が奥山のため焼失を免れ、その後復興して、現在は国指定史跡となり、紅葉の名所としても広く知られている。

13、信長の 兵火が焼いた 湖東三山 いま紅葉の
炎に染まる

残念ながら、少し来るのが早かったが、所々に見られる紅葉から、全山紅に染まった情景が想像されて、それなりに楽しかった。長い石段のある坂道を登り下りするうち夕闇が迫ってきた。あとの2寺院の拝観を翌日に回して、近江牛の待つ彦



百済寺の庭園

根市東沼波町の千成亭に急ぐ。旧中仙道の街路にある千成亭を探すが、暗い上に同じような家が並んでいて、なかなか見付からない。ようやく見付かった料亭は、旧家を思わせる屋敷風で、階段が急、百済寺の坂道に食傷している一行、思わず悲鳴を上げる。

(次回に続く)